

令和3年度第5回東播磨新地域ビジョン検討委員会 議事録

1 日 時 令和3年7月6日（火）13:30～15:30

2 場 所 加古川総合庁舎2階BC会議室

3 参加者 16名（一般6名 行政10名）

4 内 容

（1）部会における検討結果について（未来デザイン部会・課題解決部会）

委員長） このビジョン委員会の面白いところの一つはビジョンに関わった方に入
っていただく。ですから今もビジョン委員だったりOBの方も。それと行政関係者。
行政関係者が入るとするのは各県民局単位の方角にもよりますが、これだけビジョ
ン委員会の方が多いところはそんなにはないのでは。

みなさんの力で計画をつくるというよりも、どんな方向へ向かっていくのか考え
る検討委員会だと思っています。先ほども説明ありました通り各部会に分かれまし
た。これは特徴的で、多くのところでは分野別に分かれます。前の反省も踏まえて
方向性を見出す。目標は2050年の姿というスタンスでして、未来デザイン部会と課
題解決部会に分かれています。そこで検討いたしまして検討委員会としては半年ぶ
りになります。課題解決部会でこういう方向性が望ましいという解決策と、未来デ
ザイン部会で考えていただいた目標を合致させていく。これが、半年ぶりの検討委
員会ということになります。各部会の検討結果の最終確認をいただき、それを踏ま
えて骨子案としてまとめていきたいと思っています。それでは事務局から説明をよ
ろしくお願いいたします。

事務局） それでは、資料のご説明をさせていただきます。

お手元の資料①、こちらは、これまでの「未来デザイン部会」の検討結果となり
ます。まず、「理念…」、3つの「将来像…」、将来像実現のための5つの「方向性
…」、そして、それぞれの取組。

先日、委員長たちとの打合せで、1の方向性を見出しについて、再度確認のお話
が出ておりますので課題①としております。課題も含め、後ほど全体のご確認をよ
ろしくお願いいたします。

資料②の「課題解決部会」検討結果資料につきまして、未来デザイン部会と同じ
5つの方向性ごとの、「現状と課題」、それらに対する「取組の方向性」としてまと
めております。

こちら、課題②として、方向性1の(1番下)「現状と課題」変わらない組織」取組の方向性「柔軟に対応できる組織」について、方向性は、1でいいかといお話がありましたので、こちらも含めご確認をお願いいたします。

資料③「東播磨地域の市町間連携について」、稲美町さんと播磨町さんからご提案をいただいております。

こちらのご提案につきましても、どの方向性の取組に落とし込んでいくかご検討いただければと思います。

次に、これらふたつの部会の検討結果を元に、資料④の骨子案を作成しております。

骨子案につきましては、第1章に、新地域ビジョン策定の経緯、第2章に社会的潮流、第3章に東播磨地域の特性、

第4章に、「東播磨地域の現状と課題」

第5章に、「基本理念」、第6章に「将来像」を。第7章に「将来像の実現に向けた方向性」を。こちらの内容につきましては、説明の足りていないところなどを田端委員長に修正していただいておりますので、こちらにつきましては、先ほどの、資料①の「未来デザイン部会」資料と見比べていただきながら、またご確認いただければと思います。

そして、第8章の「主な取組」として、課題解決部会でご検討いただいた「現状と課題」を解決するための「取組の方向性」の検討結果をもとに、骨子案では、大きな項目だけを記載しております。

参考資料①の本体案につきましては、

第1章から第4章を詳細に、第5章の「基本理念」以降に説明文などを加えた形にしております。

今回の骨子案の確認後に、修正していく予定にしており、まだ精査できておりませんが、こちらにつきましてもご意見などございましたらよろしく願いいたします。

最後に、参考資料②の今後のスケジュールにつきましては、次回、第6回検討委員会で、骨子案策定、本体案の検討、第7回検討委員会で、本体案の策定、12月半ば～1月にパブリックコメント実施の後、2月に本体案の最終協議と予定しております。

資料のご説明は以上です。

それでは、ここからの議事進行は田端委員長をお願いいたします。委員長よろしく願います。

委員長) 資料は事前に送付しておりますので、違いなどはご確認いただいているかと思っております。資料④ははじめてですね。事前に送付はしていますが、部会では出

ていなかった。資料④は必ず使わないといけない？ある程度フォーマットで決まっている？

事務局) フォーマットはない。

委員長) 行政関係者の皆さんは総合計画などを作るときにA3横長の資料は作られるので見慣れていらっしゃるかと思えますけど。

資料②は変えましたか？

事務局) 方向性1の柔軟な組織か応用力のある組織。

委員長) 他には特に変わりはない？先ほど事務局から課題が出ていますから、そこをまず見ていきたいと思えます。未来デザイン部会での課題とされている部分ですけども、方向性1として出しておきまして「軽やかに動き、いきいきと暮らす」内容的に言うと「軽やかに」の部分が所謂交通の部分だったりする訳ですね。

もう一つは防犯防災ということですから、「安全」や「安心」という言葉が入らないといけないのではないかな。例えば「軽やかに動き、安心安全に暮らす」など。

確かに兵庫県の場合震災以降、当時の貝原知事が「安全で安心なまちづくり」ということを掲げて全国でも「安全安心」という言葉が定着した。なので、そういったことを入れなくていいのかということですが、他のビジョンの部分で入っているとバランスに問題があるかな。この辺り「安全安心」という言葉を入れないといけないかな。

事務局) ビジョン課に確認しましたが、「安全安心」という方向性の内容が含まれていれば、言葉として出していただく必要はありませんということでした。

委員長) ビジョンをずっと眺めてらっしゃる方はわかると思うが2000年に作られたビジョンでは安全安心は出てこない。阪神淡路大震災を経験して安全安心を政策の中に落とし込んでいる。その後ビジョンの見直しなどでは必ず安全安心が出てくる。これはその間に食の安全とかBSEの問題とか福地山線の事故だとか、兵庫県では様々な経験をしてきていてそういうことがあって、それ以降の見直しでは市町レベルでも安全安心という言葉が。

今回はそういう所にとらわれないというところでそのあたり皆さんのご意見を賜りたいが、いかがでしょうか。いきいきという言葉から、安心に暮らすこと、違う言葉にするとか。いきいきというのは誰が言い出したのでしょうか。未来部会の方？もし何か意図があれば。

委員) 覚えてはいないですけど、軽やかにの後半の、先ほど田端先生がおっしゃっていた防犯、安心の所と、その後の医療やスポーツの活性化、そこがいきいき。後半を生かすのであればいきいきとですし、前半を生かすのであれば安全安心だと思います。

委員) 私は「安全や安心」といった言葉に差し替えた方が良いと思っている派で、理由としては先ほど委員長がおっしゃったように、兵庫県は被災経験から災害あるいは安全安心にこだわる地域性があるということ。それから水辺を理念に掲げるのであれば、5の<自然を生かす>の項目と同時に、やはり水辺の安全、とくに風水害への備えはどこかに入れておく必要があるだろうと思います。逆に現行案の方向性2の<生きがい実感できる>には、「生き」という言葉が入っているので、1の「いきいき」をカバーできるでしょう。なので、1から5まである方向性の中に、全く触れられていない「安心、安全」の要素に差し替えた方が良いと思います。

委員長) 他何かありますでしょうか。この部分というのは見ていただいたら分りますように、東播磨のある種背骨というかバックボーン。交通だったりとか、防災もそうですけど、そういう意味では非常に重要な言葉なのかなと思っています。

いきいきと暮らすというのはさっき委員がおっしゃっていただいたように、後半部分に健康長寿。

安心安全というのは、元々このエリアは安心安全なエリアなので、今日も大きな雨が降るかと思ったら全然降らないし、そういうエリアですけど、そういう意味ではバックボーンとして安全な町というのは確かにある。どうですか各市町のみなさん、それぞれの計画を作る中で言葉を慎重に選ばれているかと思うのですが。

播磨町) 私どもも総合計画の改定がこの度ございまして、その中で町民アンケートを採りました結果、望む町の姿として、安全安心な町づくりを希望する人が多いという結果が出ておりまして、そこを推してみるのもいいかなと感じます。

高砂市) 高砂市の方も昨年度総合計画を作りまして、その中でスローガンと言いますか、暮らしイキイキ未来ワクワクという表現になっておりまして、初めイキイキという表現で良いかなと思っていたのですが、確かに相川委員のご意見いただきまして、2番に生きがいという表現が入っておりますので、安全安心の方を表に出す

のもありなのかなと、どちらともつかない意見で申し訳ないのですが、そういったところがございます。

加古川市) 加古川市も令和3年度から新しい総合計画をスタートさせている中で安全安心というのはキーワードの一つかなという風には感じます。ただ難しいと思ったのは、安全安心が前提にあってこそいきいきと暮らせるとか、生きがいを実感できるとか、交流が広がるということがあると思うので、なかなか1だけに入れるというのは難しいと思いました。

明石市) 明石市も今ちょうど作っているところでありまして、2030年の目指す姿としてSDGs未来安心都市ということでスローガンを掲げています。やはり前提として、市民の皆さんが安心して暮らせることが色々なまちづくりの始まりということでそのようにしております。1から5までのバランスを見ますと、安心とかいうものをいれたほうがはっきりすると思うので、私は安全とか安心を入れた方が良いと思います。

委員長) ありがとうございます。他にどうでしょう。市町の意見を聞きながら、大きく2つに分かれて、一つは、安心安全は前提だから方向性の前段階にあるじゃないかということと、もう一つは明確にするためには入れたらどうだろうかという2つだと思うのですがどうでしょうか。

委員) 安心安全というのはすごく重要だとは思いますが、先ほどのご発言にもあったように、結構東播磨というのはもともと安心安全な地域にあるということがあって、将来像の中に安心というのが入っているので、そこを強調するよりも暮らすだけでいきいきと健康長寿になるというところを強調したいなという想いもあります。未来デザイン部会の長としては。

そういう意味で将来像の所に安心が入っていて、方向性1のところでは文言として安心安全が入っている、これは重要なのは分っています。そのうえで、暮らすだけで恵まれた地域なので健康長寿になる、そのあたりが捨てがたいなというのがあります。どちらになっても納得はしますがそのあたりを強調しておこうかなというところでは。

委員) 難しい質問であると思いますが、やはり取り組みの所を見ますと安全、安心というところは必要になってくるかなと思います。ただ委員がおっしゃったように人々がいきいきと暮らすことによって安心安全というのが生まれてくるということもありますので、難しい選択だなと思います。どちらになっても私は賛成します。

委員) 安全安心というのは基本的なことでもありますので、そこが根底にないとなかなか。将来像の中では安心と書かれていますけども、安全安心は今流行ですけど、そういう意味ではそれを上に付けるという、「軽やかに」を変えるという手はあるとは思いますが、生きがい実感できるとか、交流が広がりとか、少しわかりやすくするというのでいきいきと暮らすというのを、そういうことでそういう文言にしているのだろうと。取組の中や、それから基本部分ですので災害だけでなく安全安心というのは食もそうですし、それらの根底にあるという意味ではいきいきとでもいいかなと思います。

委員長) ありがとうございます。一つは先ほど委員がおっしゃっていた、目指すべき姿に安心が入っている。もちろん交流も入っているし方向性にも入っていますけど言葉の問題はそういったことがあるでしょうけど、先ほど委員がおっしゃったいきいきと暮らすことで安心安全というのは、私は一つこの考え方にあるのかなと思っています。というのは、この軽やかに動きを防犯や健康でどう捉えるかというのは私も考え方として非常に苦しんだところです。

やはり一つは軽やかに動きというのは交通のことがメインの所ではありますけども、それよりもやはり考え方ですね。一昨日の伊豆の災害でもありましたけど、守ろうとしてもなかなか守れないところがいっぱいあると。あんなところに土砂を積んでいるなんて誰も思わないわけで、なかなか守ろうというのは結構限界がある、いざとなったら逃げられるというのが。そういう意味では先ほど委員がおっしゃった、いきいきとしていなければ逃げることもできないなというのものもある。

防犯に関しても、活力のあるところは変な犯罪は多いですけどいわゆる後ろ向きな犯罪が少ない。犯罪をしても問題ないなというところで犯罪がおきやすいと言われている、いきいきとしているところはあまり犯罪が起きない。

そういうところで委員のおっしゃった生き生きと過ごすことで安全安心というのは一理あるというのは先ほど聞きながら思っていて、ある意味この考え方というのは方向性ですから、きっちり守るというのはなかなか難しいというのはなかなか

難しいけども、活動することで安全安心が得られるのではないか。この発想はあっても良いと思います。ですからそういう意味で具体的に、書き方。災害に遭っても素早く日常を取り戻すレジリエンスだとかそういったことが出てきてますので、それをもっと全面的に出す形にしたらご理解いただけるのではないかとも思いましたので、委員がおっしゃられた、いきいきと暮らすことで安全安心が得られると言うことを強調するところをどこかにいれていただいて、この文章は委員がおっしゃられたように未来デザイン部会の方で議論した上で、いきいきという言葉を入れていただいたということであれば、そこに取り入れたらと思うのですがどうでしょうか。

委員) 異常気象が続く事を考えると、安全安心は放っておいて出来る物ではなく、方向性として明確に打ち出していないとダメだと思います。震災から 25 年が過ぎ、だいた意識が薄れてきているので、2050 年を考えるにあたり、再度「安全安心」を方向性として入れておく必要があります。いきいきと暮らすことで安全安心になる一というのは、私はどうもピンときません。みなさんが、それがいいというのであれば多数決には従いますが。

委員長) 局長どうですか。このあたりご意見あれば。

小川県民局長) 確かに安全安心は一丁目一番地だと思います。予算編成でも安全安心が一番上に書かれていて、委員長がおっしゃるように、そこに色々な施策がぶらさがっていった訳です。その中で、一番目の項目で安全安心と謳い込んでしまうのはちょっと狭い範囲になっているのではないかというご意見もあったかと思いますが、安全安心という言葉が阪神淡路大震災の教訓から繋いでいくというようなことは大事なことだと思っているので、私も県の職員なので個人的には入れて欲しいなと思っていますが、ここが一番目のタイトルにふさわしいかというのは和田委員が議論の中で、ちょっと違った趣旨で議論されていたようにも感じましたので、ここで総論的に押さえていただくというのも一つの趣旨かなと思いますけど、ちょっと重たい感じがするのも否めないかなと思いますので、難しいところではありますが、軽やかに動きは交通手段も謳っていますので、これも非常に良い表現だと思いますので、安全安心は枕詞のようになってしましますし、どこかで継続ということも一つの大事なことだと思うのでどこかで文章なりタイトルとして謳っていただければじっくりくるのかなと思っています。

委員) スローガンでよく「安全安心なまち」というのを見かけます。そのたびに「この町は安全安心なまちではないのだな」と私自身は思ってしまいます。そういうスローガンを挙げているところは全く出来ていないということで、安全安心を入れてしまいますと「いつまで経っても安全安心な場所ではないのだな」と思ってしまいます。逆にそこに生きる人たちが元気でいきいきと、近所とコミュニケーションを図っていくというところでは、災害に遭ったとしてもいち早く立ち直っていくのではないかと思います。そういう意味で堅い安全安心という言葉は卒業しても良いというところまではいきませんが、それはここの言葉では表現されなくても良いのかなとは思いました。

委員長) なかなか厳しいご意見で、市町の担当者の方もおそらくグサツときたかもしれません。私もいくつか携わってしましてなかなか言いにくいですが、ではそこをどうするかとなった時に、施策に活かしますとしか言いようがないのですが。

先ほど局長としては、出来れば入れてほしいということもありましたが、私は方向性としてはやはりいきいきとを入れていきたいと思っています。みなさんおっしゃったように安全安心は全体的な一つの前提条件であると。全ての課題がそこからスタートしているということでしたから。一丁目一番地という言葉もありましたけど、ということ踏まえると先ほど市町の皆様のお話を聞いていても、全ての市町が安全安心を掲げていらっしゃる訳ですよ。では、県としてどうするのかといった時に、方向性としては 2050 年に向けたこういった方向から安全安心を図っていく。その元で健康を作っていくなどそういう方向にすればいきいきと暮らすというのは一つの良いテーマかなと思います。この辺り先ほど委員もおっしゃった生きがいにも関わるのではないかとということで、言われてみれば気にはなりますが、そこまでという気もしないでもない。2をどうするかは私も考えていませんでしたが、この方向でいきたいなと思っております。局長や委員には申し訳ありませんが。

それから課題の2点目ですけれど。「軽やかに動き～」のところ変わらない組織を入れたのは、軽やかにというのが、人が物理的に動くということだけではなくて、例えば組織が変化していったりとか、組織を渡り歩くとさえいえば言い方が良くないかもしれませんが、そういうようなところで、旧住民と新住民の話。でも組織そのものを変えていくか、あるいは別の組織で地域ぐるみで出来ることを。自治会を中心

としたコミュニティは、市町の場合では主役になっているのですが、それ以外の組織をどうやって結びつけていくのか、みたいなそういったところもあるかと思えます。

委員) 補足しますと「変わらない組織」という課題は特定の政策分野で捉えるよりは、むしろ進め方や取り組み方の課題、調整能力も含めた組織のあり方論だろうと考えました。ただ、方向性の中に入れ込む際に1か4かで悩み、1のところは基盤だから、とりあえずここに入れておこうという話になっています。

委員) 組織を柔軟にするということは、非常に重要なことだと思います。

ただ、ほんの2行で書かれてもイメージが湧かない。上の方は統計データなども入れて、具体的なイメージが出来るように書いてありますけれど、どうしたら良いのかなど。感想になってしまっていますが。

委員) 委員は1か4のどちらがしっくり来ると思われます？ 4はコミュニティビジネスや企業など民間の取り組みを書いているので、こちらに入れた方が良いでしょうか？「軽やか」という文言につられて1に入れたと思いますが。

委員) そうですね。やはり4になると分野が限られてしまうところはあるような気がします。産業とか組織みたいな話とか。多分本当は委員もおっしゃったような地域の組織みたいなところも踏まえて言えば多分4に入る。でも人のこともあるから。

委員) 委員がおっしゃった組織というのは自治会など地域の組織、それと会社の組織など色々ありますが、全般を指しているのかどこなのか。3でも自治会のことは書いている。組織というものを大きく見た時には、かなりの部分に関わってくる。組織というのは会社、家庭、自治会などもそうだろうし全て変わらないといけない。

色んな組織が変わらないといけないというようなことはイメージで言ったら後半にいれたら良いような気もするけれど。しかし、変わらないといけないということなので。デジタルということもあるけれど、未来を見た時に新たな自治会を、そういう組織を作っていないといけないというのは、お年寄りや子どもも共生出来るような、そういう地域にしていけないといけないというのは確かにある。そういう

ことも含めるとどこに入れたらいいのか迷いますね。色んなところに関わっているから。

委員長) この話はもともとどこから出てきたのですか？

委員) 課題解決部会で、硬直化した組織が駄目だという話からです。ここまでが基礎自治体で、ここからが県民局の仕事—みたいな仕切りにこだわらず、相互乗り入れが必要だという話だったように思います。

融通をきかせるという意味では「自律」に近いのですが、今の案は自律が1、2、3だけで4にはかかっていません。そこで1になったのでは。

事務局) SNSなどのグループの組織も自由にというのを、委員長がおっしゃったように思う。

委員長) 私でしたか。学生を見ていると、SNSも早いですね。

副局長) 組織が流動的というか、移り変わりが激しいと言いますか、SDGsの話とかも根底にはあるかと思えます。ただどちらに入れるかは難しいですね。1でも別に収まりがものすごく悪いとは思いませんし。

委員長) 変わらない組織を変えていかないといけない方向性としてあるのが防災の基盤とか移動とかこれでいいのかなというのはある。ここに入れるとしたらやはり取組の方向性がこれで足りているの？4だったらその辺りが何とかなるような気がするというのが多分委員のおっしゃっていることかなと思う。

委員) 私も4が良いとは思っていないのですよ。1か4で迷っています。

委員長) 自分たちでやる。先ほど委員が言った自律という言葉、律することが出来る地域という意味では確かに。

小川県民局長) 1は交通が結構色濃く出ちゃっているので、4の方が生き方とかそういったことの提案になっているのかなとは思っています。組織に焦点を当てるとい

う意味では外国人の話も出ているので4。二者択一でいうと4かな。

委員長) 局長は4の方で。別に4にこだわっている訳ではありません。3もコミュニティの話ですから可能性はある。

委員) あと1にした場合、取組は4に入ってくる。この話が出てきた背景がSNSやデジタル化であれば4の方が合っているかというように思う。

委員長) 時間もかかりそうなので一旦4に入れていただいて、方向性としては多様な主体が出てくるとか、そういったところから新しい組織をつくるとか。SNSの問題とか考えると4の方が良いかもしれない。意図としては、組織は変わっていかないといけない。これで課題の部分はよろしいですか。

そうしましたら資料③、市町にご提案いただいた部分ですけれども稲美町と播磨町からいただいております。播磨町、付け加えなどはありますか？MaaSやデマンド交通の話。

播磨町) 前回の部会で出た話で、考えてみましたが時間もなく庁内で議論したものではありませんで、従前からの課題ということで公共交通の辺りが念頭にあったもので、この機会に出したということで。3については単純に思いつきというか、こういう形で披露されるとは全く思っていませんでしたので、ですので具体的に実現するとかそういうレベルのものではないということだけご理解いただきたい。

委員長) MaaS、公共交通の辺りは稲美町も言っていることで、方向性1の取組の中にデマンド交通の導入、新たな交通手段の導入とありますけれど、導入するだけではなく運営ですよ。ちゃんと運営出来ないと意味がないので。観光にこれを活かしていくとか、導入しますというだけではなくてこれらを運営していく。方向性の中に入れていくということによろしいですか？

委員長) 4は産業に関わるので、東播磨分を入れているのですが。要は数ですよ。国交省にどれだけ取り上げたかという。1のところにMaaSが出てくるのでここに入れていただくのと。また観光の話も折角してくれているので、それもどこか。MaaSを活用して交通システムの中に組み込んでいくことが稲美町のご提案かなと

思っていますので、ひとまず MaaS に関しては1に入れたいと思っておりますがよろしいですか。RPG はどこか入れるところありますか。

委員) 3のRPGは面白いと思う。各市町歴史的な背景があるかと思うので、そういったものをRPGにすることによって学べて面白い。

委員長) 3はまたどこに入れるか考えましょう。他市町で加えてほしいもの等何かあれば。

高砂市) 加えていただけるほど具体的なものがなくて、資料を見させていただく中で播磨町のRPGですね。去年県民局と民間でスタンプラリーをしていたかと思いますが3市2町を絡めていただいて、グレードアップしたものはどうかという意見はありました。ビジョンの中で一番はじめに水辺がということでしたので、3市2町水辺と言いましても海辺、河川敷、ため池もある。各市町で水辺は様々ですけども県民局が音頭をとって一斉に日を決めて清掃活動をしたらどうですかという意見は内部でありましたが具体的にお示し出来るようなところまではいっていません。

委員長) 委員がおっしゃった前半の部分、スタンプラリーとか地域を振り返り学ぶ場をつくる。RPGが良いのかスタンプラリーが良いのかはわかりませんが、それから水辺の一斉清掃とおっしゃいましたが、具体的に日時を決めてやりましょうという感じですか？それとも毎月1回やりますみたいな？

高砂市) そこはまだ詰めていないですけど、月1回でも良いですし、当市もSDGsの関係で色々考えていまして17の目標ということで17日をゴミ拾いの日ということで意識していけたら。当然他市他町の意見もありますので、勝手に高砂市が言っているだけですがそういう月1回に日を決めてというのもありなのかなという意見もありましたが、まとまってはいません。

委員長) 海を守ろうというテーマになるので、取組の方向性5の中に海辺を守ろうというのがあり、要は海辺に関心を持ってもらって。ただ問題なのは高砂市、明石市と加古川市、播磨町もそうですけど海辺を押さええているのはほぼ企業。そこは少し問題。一部明石市は人口海浜を造られていますけど、殆どは企業ですね。高砂

もまさに。

委員) 水辺を意識することが、とても大事だと思っています。実は課題解決部会で、いったん細部の議論を終え、再度全体を見通したところ、理念である「水辺」や「ものづくり」が全く入っていないということに気が付きまして・・・ものづくりのところでは委員長のご指導で〈稼ぐ力〉を追記し、水辺についても記述を加えた次第です。

東播磨には川も、海も、ため池もある。「水辺」は前回から引き続いた大きなテーマですが、多くの県民がそれを意識していない現状をなんとかしないといけません。まずは「意識をする」ことを、方向性5の現状と課題で触れ、多様な水辺のあり方を認識する。そしてアウトプットというか方向性として、水辺を意識する機会をいくつか書き込む。ごみ問題だけではなく、例えば上流から下流まで歩いて流域を意識するとか、企業に頼んで海岸線まで通じる道(フットパス)を付けてもらうとか、海から陸を見てみるとか。そんな感じの水辺に対するキャンペーンを入れると、理念の「水辺とものづくりのまちでつながる」が現実味を帯びてくるのでは。

委員) 以前は東播磨の工場の若い人たちが海岸線を1年に1回掃除をされていた。私達も東播磨県民局環境課の案内で水辺のメンバーも一緒に清掃するという時期がありました。

川下りをするような事業を夏休みにやっけていまして、以前は「森・川・海を繋ぐ」ということで子どもたちが夏休みに上流へ行って間伐体験をさせていただいたり森の話の話を聞いたりしました。森の方の人たちは下流まで行って高砂の青年の家に泊まって干潟の体験をしたりしました。

20年ぐらい前になるかと思いますがけれど森・川・海再生プランといった事業があって専門員をさせていただきましたが丹波県民局、北播磨県民局、東播磨県民局が一緒になって、川ではつながりを感じられるような事業をしてきました。そういったことをやってきましたけれど最近はその様な事業は行われていません。

委員長) 実際にはこういった活動もしているということですので、委員にまとめていただきましたけれども川も含めて水辺に意識を置く。加古川市でも変わった川についてのフォーラムを行っていましたね。加古川は一級河川ですので基本的には国の管轄です。結構昔に円山川が氾濫した時に井戸知事が「国の管轄だから」とい

う言い方をされていて、その言い方はないだろうと私が思ったこともありますが、確かに一級河川の管理は国だけでも主は県や市町ですから先ほど言ったように関心を持ってもらわないと、というのはあったので、この部分を5へ入れていただければ良いのかな。そういう形でお願いします。

加古川市、河川のことで他に何かこれは入れてほしいというものがあれば。

加古川市) 川の関係ですけれども、今年度から本格的に川のまちづくりというところを進めているところです。

そぐうかそぐわないはわかりませんが、スポーツの分野の中で見ていますと個人が自分でやるところが書かれているところですが「スポーツを観る」とかそういうところもあったりしまして、広域であればプロのスポーツとかを支えられるような地域であればふるさと意識の醸成とか地域の活性化につながるようなことかなというのは感じるところです。

委員長) 例えば1のスポーツでいきいきというところで考えていらっしゃる？それともまた違うところですか？3だったり4だったり。

加古川市) そこまで考えてはいないですけれども、広域で何か出来るメリットというのはある程度の地域の広がりであるとか、人口のメリットがないと出来ないことかなと考えていた部分もございまして、そういう部分において何か広域での連携で考えた時に、出来るのかなというところで、これをビジョンの中に溶け込ませるといのは難しいというの十分わかっているところです。

委員) 3のところ広域のまちづくりの要素を新設して、3市2町のRPGなど広域性を活かした地域、みたいな要素を入れ込む手はあります。とはいえ、独自性を活かしたい各市町にとったら、あまり連携を入れ込まない方が良いのかもしれないね。

加古川市) 県のビジョンの中で3市2町の取組とか連携とかを取り入れるのは書きぶりとしてどうなのかというのはあります。

委員) ゆるやかにつながる、ぐらいでしょうか。

加古川市) 例えば県全体の取組の中で3市2町での連携が必要なものがあれば、取組の方向性の中での連携ということになるのかなと思います。

委員長) 広域性というところと、観るスポーツによってご当地チームとか。加古川市だけだと人口的に厳しいと。3市2町になると70万人ぐらいになるので、それならば十分プロスポーツであれば出来るのではないか。

それと、企業数もそれなりにありますから出来なくはない。バスケットボールの西宮ストークスも、サッカーも。そういうところが、広域の中に入れられないかということでした。

副局長) 広域性を考えた時にどんどん入れていった方が良い。3市2町の広域性。

委員長) 3市2町の広域性のところに入れられるかと思います。それから、全てのことと言えるかもしれませんが広域的に考える。1か3に入れておきますか。

副局長) それぞれに入れるというより、そこにくっつける。取組の中でも広域的にやる部分があるという。

委員) たとえば、交通の相互乗り入れの問題は入れておかないといけませんね。河川の上流と下流の連携も。

委員長) 先ほどおっしゃった素通りされる地域の方向性の中に広域的な3の観光などが入ってくると。それからもう一つは方向性1の中にMaaSが出てきましたけども運営するにあたっては広域性を考えないといけない。MaaSは特に。播磨町だけとかあまり意味がない、意味がないことはないですけどエリアが小さいものですから、播磨町だけではなく高砂市加古川市稲美町明石市と一緒にないとMaaSなどもしないでしょう。

委員) さっきの水辺もそうですね。

委員長) その辺りについては、取組の方向性の中に広域性を入れる。それでスポ

ーツはどうでしょう？

委員) それよりも、災害の時の広域性を。サプライチェーンですとか、広域性を。

委員長) 入れさせていただきます。取組の1の「防災・減災の基盤を整える」の中の広域的な対応。

委員) 東播磨はビジョンそのものが広域性。東播磨全域を考える。全ての将来像に関わってくるというのが。お互いが助け合わないといけない。防災や環境問題、スポーツもそう。広域性を考えるのが基本にはなっているでしょうけど実態はそうはいかない。

委員) 委員がおっしゃった海辺、水辺のことは、そういえばそうだなと思いました。流域はある程度意識があると思いますけど、特に東播磨の海辺は自治体や企業によって分断されてという形でぶつ切りになっていて海岸線という形で意識されることがないので。やはり何かしら企業としても協力する、分断されたものを線でつなぐ取組というのを、水辺の取組としても重要ですし広域連携としても重要だと思います。

委員長) 水辺の分断、重要なテーマですね。方向性5で水辺の課題の中で海辺の分断というのも含まれて、そういったものを企業なども含めてつなぐ仕組みづくり、それは入れておきます。また事務局は考えてみてください。明石市、今のお話を聞いて、いかがでしょうか。

明石市) アイデア出しでは考えられていないのですが、私も海岸線を利用して何か出来ないかなと思いました。明石市ではサイクリングロードがあって海辺を気持ちよく走れるのですが、どこかしらで途切れてしまっている。どこで途切れているのかは、最近走っていないのでわからないのですが、ずっと海岸線を走っていかたり、加古川を上っていけるようなコースが出来たら面白いのではないかなと個人的に考えています。

委員長) サイクリングロードに乗っかる訳ではありませんが、要は連続性と言い

ましようか。交通もそうですね、バスもそうです。かこバス、たこバス。神姫バスも加古川駅から明石駅、土山駅にも行かなくなるかもしれない。そうなるとかこバスやたこバスで結ぶしかなくなるので、どうなるのかと思いながら。それは別の問題があって、色々話し合ったりもしていますが、いずれにしても地域連続性が欠けているというのがもしかしたらあるかもしれない。ここだけではないと思いますが。

加古川、高砂、明石とそれぞれ10万人以上の大きな街で、完結型で出来ているのでなかなか動きにくいところがあって、どうコントロールするか。阪神南も西宮と尼崎でぶつ切りでしょうね。阪神北は伊丹が中心地でしょうし。

小川県民局長) おっしゃる通りで、明石はサイクリングロードで良い場所がある。そこより西は確かに海岸線が埋め立て地で工業地帯になっている。高砂市だと海に面しているのは向島公園ぐらいですかね、そこを活かすか、別の切り口に変えるか。

一斉清掃は一つの具体的な取組で、自治会などの取組でもメイン行事は清掃ですから一つの取組としては面白いと思っている。

稲美町からスマートシティ構想が、昨年からもやっております今年も新たに検討しておりますけれど、4の情報の基盤のところ出来たら盛り込んでいただいて、基盤のつながりというのは大事にしていきたいと思っています。今は良い感じで出来ておりますので、増やしていきたい。

委員長) スマートシティについては4に入れる感じで。スーパーシティという言葉になるかもしれませんが。文言は少し変えないといけないかもしれません。加古川市も一生懸命されておりますので、よろしく願いいたします。

明石市がおっしゃった通りサイクリングロードで、つながっていないところをつなげていかないといけないというのは広域性のところで。サイクリングロードになるかはわかりませんが、広域性を担保するものとして分断されているものをつなげていくことが大事なのかと、入れていかないといけないのかと思います。

自然・海辺の部分は方向性5に入りますが例えば方向性4の中で、「人・もの・情報がつながり」と書いてある訳ですからこのつながりが行政で閉じているのであれば、そこをあげていく仕組みがある、というのはどこかで書いておくが良いと思います。特に資料4などでご意見あれば。

未来を構想されている未来デザインと現在の課題を解決するための方向性は何なのかということ考えた課題解決部会。ベクトルが一致出来るようにしようという

のが元々の発想。それを文章で表すとなかなか難しいところがあって。

委員) 安全安心と震災の後ボランティア元年など言われたが、そういったものを兵庫県は大事にしてきたと思う。助け合うといったことがこの中にあまり書かれていない。地域社会でもそうですし防災でもそう、お互いが助け合うということ。個々のことは大事にして、二つの地域で住んだりしても良いがその中で根底にお互いが助け合うことが大事だと思った。その辺りが抜けているのではと少し思った。

委員長) 方向性として考えるべきものなのか。ある種の互助ですね。自助、互助、共助。共助の仕組みは保険だったり。今委員がおっしゃったむしろそうではない、組織化しにくい部分だったりとかインフォーマルだったりとかということですね。

委員) 大事だと思います。方向性の2は、今のところ「子育て」の話が中心ですが「多様な人々が混じり合い大事にされ支え合う」の項目があるので、入れるとしたらここでしょうね。「ひとを育み、生きがいを実感できる」という中に自分の子どもや地域の子どもだけでなく、多くの人という含みを持たせる。「支え合いが生きがいにつながる」みたいな感じの文言をここに入れるとじっくりきます。方向性1に入れてしまうと、この部分がまた膨らんでしまいますし、方向性3だと内輪の団体だけの支え合い、みたいな感じになってしまうので。

委員) 助け合いの心を育てるという意味でも2に入れるべきだと思うのと、前半に委員長がおっしゃっていた、自律というところが薄い。2の自律に当てはまるのかと思いました。

委員長) では2の方で少し。先ほどおっしゃった助け合いのところの考え方。これを基盤としていく。

委員) 良いと思います。先ほど委員がおっしゃった、子育てに比重がかかりすぎているというのはあるかなと思っています。どこかでやはり多様な生き方とかそういう社会の話はどこかで未来デザインの議論でもあったと思いますので。

副局長) 方向性1のところ、複数の機関を移ることでの切れ目のない医療とい

うのは。

委員長) 現在の地域包括ケアシステムの考え方というのはいわゆるシームレスですよね。英語では地域包括という意味ではなくて、移動にストレスがないシームレス。日本の地域包括ケアシステムでは一旦家に帰ります。病院から家に帰って、そちらに行く。切れ目が出来てしまう。家を切れ目と考えるのもどうかと思うが。期間としては切れ目になってしまう。そういった風に言われているので軽やかに動いてくれたら問題も少ないのかと思ってこう書きましたが、医療の部分はどうやって軽やかと結びつけていくのか。いきいきというところがあるので、いきいきとしたところにくっつけることも考えましたが、軽やかにというのはある意味身軽であるが故に色々なことが出来る。だから医療も専門医が色々ある中で、その中で専門医を選んでかかる訳で、そこを可能にするために情報がマイナンバーカードの中に含まれていて、理屈ではシステムティックに動くことになっている訳ですね。そういう風に自分の選択の幅が広がっていく中で動けるところ。これが、人口が少なすぎると出来ない訳ですね。ところが東播磨は比較的人口が多いので、それが出来る。例えば播磨町の住民だから加古川の医療機関にかかっちゃいけないことはない訳です。ですが例えば加古川市の医療システムが一致していなかったら、マイナンバーカードでうまく表示されれば良いですし、播磨町と加古川市は同じ医師会だから問題がないかもしれないけれど医師会が違くと駄目だとなって動けないかもしれない。これを何とかカバー出来るような。例えば播磨町の病院で診療を受けて、リハビリは高砂の病院へ行ってくださいというようなことがもう少し自由に出来るのだらうなど。移動は大変かもしれないけれど。そういうようなことで、地域が抱えている医療問題も解決出来るのではないかという意味で書いています。

医療資源は全部自前で抱えようとしたら、高砂市も市民病院をどうするかという課題を抱えておられますけれど、加古川市の市民病院と統一が出来なかった訳ですけど、そういったことを考えていけないといけない時代に来ているのかな。表現は変えてみます。東播磨は色んな意味である程度整っています。そこをうまく活用する方法を考えていけないかな。その割にエリアが広いので。

小川県民局長) 稲美町からバスに乗って加古川医療センターに行けない。そういうことが現状の課題としてあるので委員長がおっしゃったような移動が軽やかに出来るというような、目標としては。

副局長) 暮らしを維持するというのは、暮らしを守るということ？

委員長) そちらの方が良いかもしれません。守るだけではなくて、今の水準を維持する。最低限守るということではなくて今の水準を維持したい。そこにあまり大きなこだわりはありません。意図的には書いています。

ある意味それが一般化してくれば、言い方は悪いけれど災害に遭った時に暮らしの水準を下げなくてすみませよ。行き先が避難所しかなくなるなど。今回の伊豆はコロナ禍で旅館が空いているから旅館に入れましたけど、あれはすごく面白いなと思っていて。例えば加古川で災害に遭っても明石市のホテルに入れるとなってくれば避難が何とか出来る。維持するというのは守ることだけではない。

副局長) 資料4の現状と課題。羅列しているだけなので、少なくとも5つの方向性に対応するように資料を修正した方が良いのかな。

委員長) それに合わせた形で。今出てきた変わらない組織の部分もありますからこれに合わせる形で。パブコメはこれでいくのですか？

事務局) 12月に。

委員長) パブコメをとるかどうかも想定していただいて。

委員) 本体案ではなく？

事務局) 本体はまだです。

委員長) 本体はまだ途中ですよ。参考資料で出ているのが本体で、また加筆修正をされるということですね。資料4の、今日出たご意見の分も踏まえて本体案を加筆していくということです。

委員) 災害の備えというところで、これまでの兵庫県は総合的な治水対策として取り組んできました。ですけれども昨年から流域対策が言われています。というの

は、温暖化に伴って雨の降り方が変わってきていますのでこれまでのように水を流す、貯める、備えるという総合治水の考え方からも流域全体で、誰もが関わっていないといけないという施策になります。それに変えられた方が良いのではないのかと思います。5の災害の備え。

委員長) 第三章の災害の備えのところですね。総合的な治水対策のところ。そういうところも含めて流域の方の課題にはなってきていますので。川は今までは国だったの、河川敷は市町でしたけども。流域のことは、川が越流しないような防災は国が整えてくれますという前提でなっていますので。場合によっては住める住めないの判断もしなければいけないかな。

委員) 方向性1、複数の機関を移ることで切れ目のない医療というのがすごく重要なところで。私も明舞団地に行くのですが、明舞団地って中心の医療地が明石市で、神戸市側の人も普段かかりつけは明石市の病院に行っているのだけれども、コロナのワクチンの接種で最初の頃の足りないという話の時に明石市の人じゃないと駄目だと断られた、かかりつけ医なのに打ってもらえないという話を聞いたりしたので、切れ目のない医療というのはすごく大事だなと思ったところです。

私がイギリスにいた時に救急で、大きな病院にかかったら「あなたのかかりつけ医はここで、〇月〇日にこういう診療を受けていますね」というデータがある。わかっている。だから切れ目のない治療が出来る。本当に切れ目のない医療。表現として「複数の機関を移ることで」というのはわかりにくい。

これ自体でパブコメするというだけでなく、本体がパブコメの対象になるということなので、その辺りの説明は本体の方に委ねて、例えば「複数の機関を移ることで」は取り除いて、「切れ目のない医療の確立」だけでも十分かという気はしました。

委員長) イギリスではコンティニューアスケア、継続したケア。あそこはかかりつけ医方式で、ケアシステムはしっかりしているので。

委員) 全体の章立てですけども、8章の主な取組で終わってしまっているのでしょうか。一般的な計画では、それを動かす仕組みやフォローアップのことまで書き込みますが、県民局の地域ビジョンでは、どの程度書くのでしょうか。第1章の策定の経緯の3番目の項目にも「多様な主体がビジョンを共有し、取組や施策を進め

る」とありますから、やはりどのように共有していくのか、どう進めるのかの部分
は必要ですね。おそらく県民行動プログラムと県民局の推進プログラムとに書き分
け、時折外部の人にも進ちよく状況の点検をお願いしながら進める、というフォロ
ーアップの仕組みが書き込まれていないと、作って終わりのように思われてしま
いますが。

委員長) 本庁ビジョン課の方から、先ほど委員がおっしゃったようなPDCAを回
すような、うまくいくかは議論があるところでしょうかそういう指示はありました
か？

事務局) ビジョン課の方で具体的な取組や施策のところは、特に指示がなく。も
う一度確認はしておきます。

委員長) もう一度確認はしていただいて。先ほど委員がおっしゃったようにこれ
は県民局どうこうなので、誰がPDCAを回すのとなったときに市町が回す訳ではな
いという話になりかねない訳ですね。ちょっと確認いただいて。

室長) 先ほど加古川市がおっしゃった地域のプロスポーツですが、最近サッカー
チームやバスケットチームを作るときに地域性をものすごく重視しています。西宮
ストークスも、元々兵庫ストークスという名前だった。兵庫県を意識して最初名前
を作ったのですが、リーグの意向で都市に特化した名前ということで西宮ストーク
スになった。宇都宮ブレックスというチームもあれも元々栃木ブレックスだった。
なので、東播磨管内でチームを作ったら加古川～とか明石～になる恐れがあるので、
なかなか広域的なプロスポーツというものは難しいのかなと。すみません、理想と
しては素晴らしいのですがなかなか現実には難しいのかなと思いました。

委員長) そうするとホームタウン、アリーナを造ってというのも。

いくつかいただいた意見で、骨子案を元に反映させていただきたいと思います。
それではこの辺りで終わらせていただきまして、骨子案等について事務局の方で整
理させていただきたいと思います。

事務局) 本日の議事録は後日内容をご確認いただくようにいたします。次回の検

討委員会は修正した骨子案の確認後本体案の検討を予定しております。日程については後日調整いたします。